

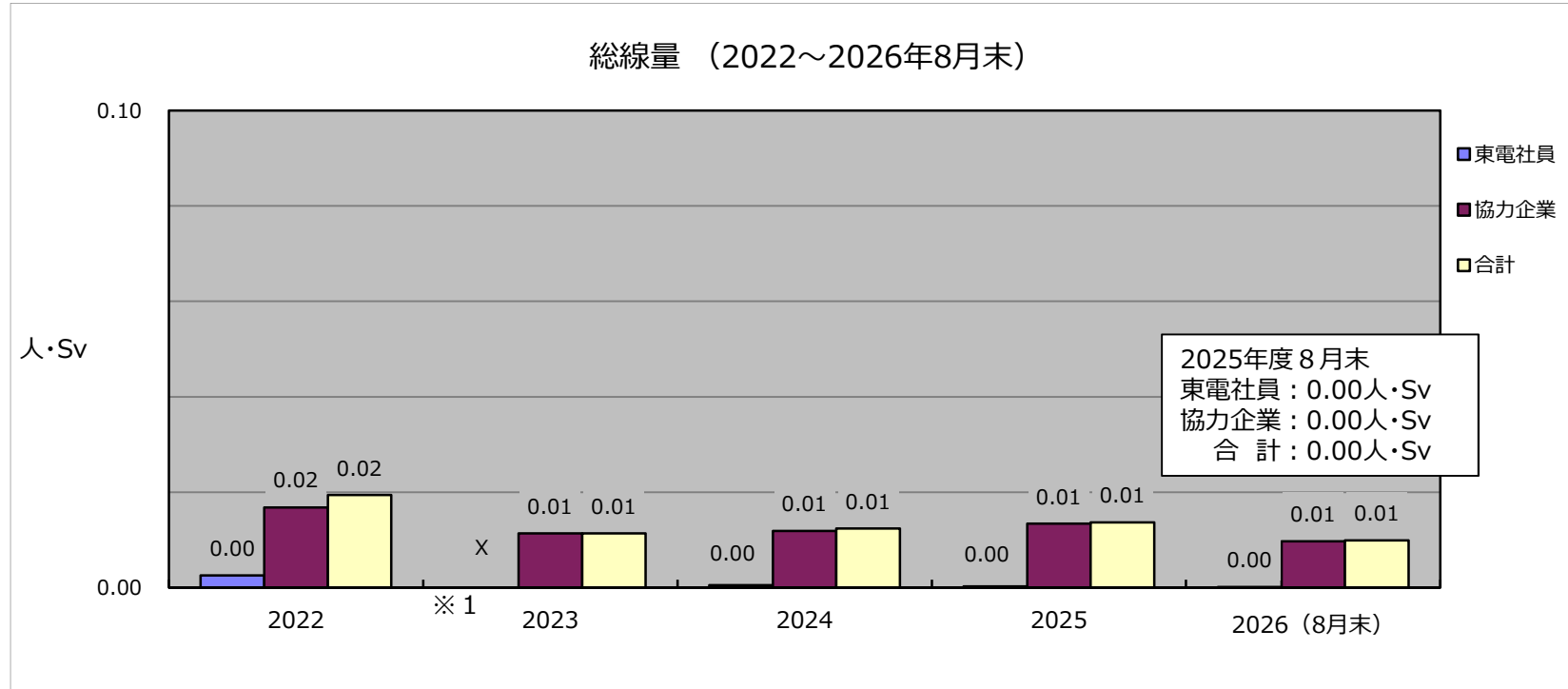
福島第二原子力発電所 放射線業務従事者数および線量状況について

2026年 10月28日

東京電力ホールディングス株式会社

①年度別外部被ばく総線量

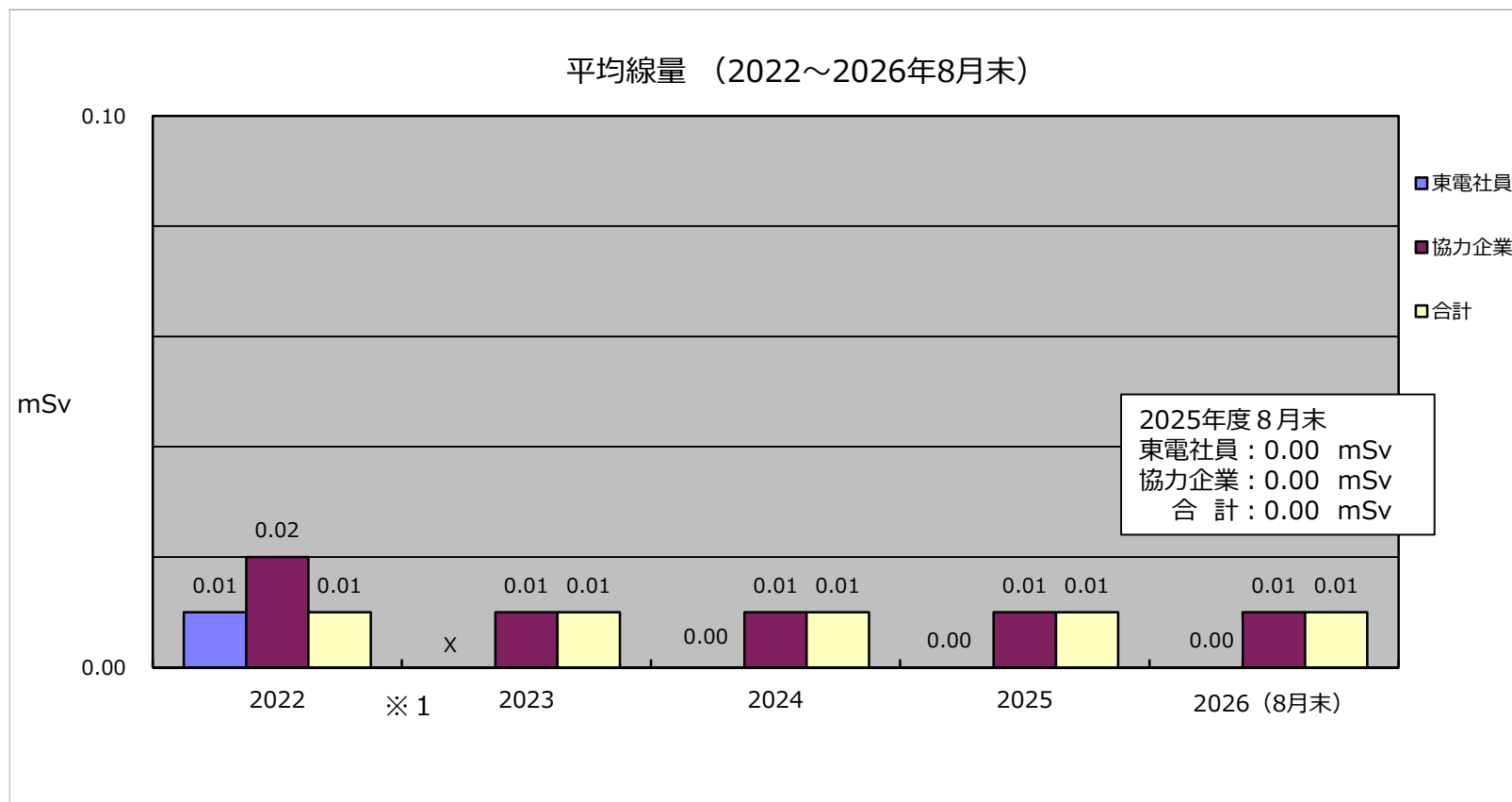
- 前年度の同時期と比較して同程度である。



※1 X:検出限界(0.1mSv)未満

②年度別外部被ばく平均線量

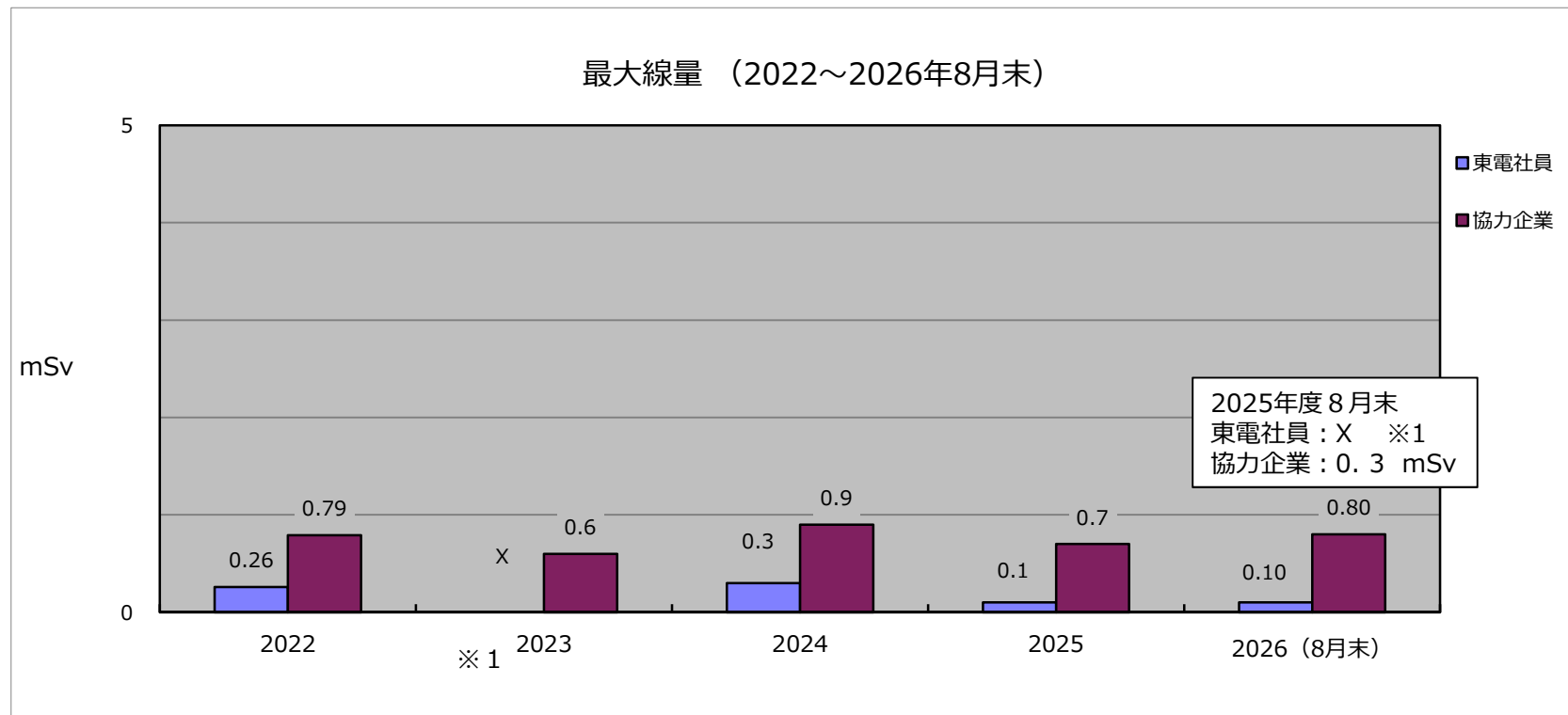
- 前年度の同時期と比較して同程度である。



※ 1 X:検出限界(0.1mSv)未満

③年度別外部被ばく最大線量

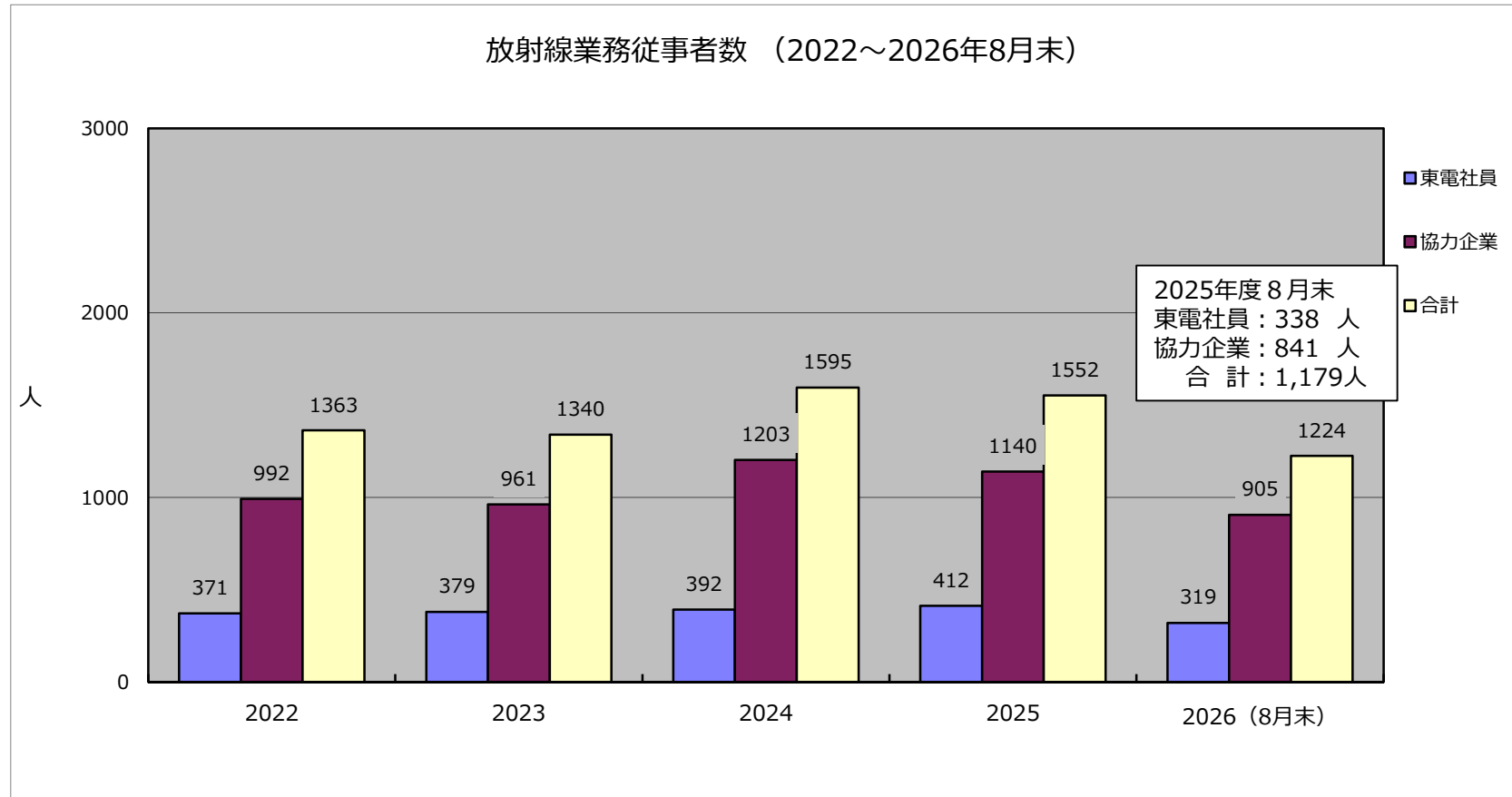
- 社員の外部被ばく最大線量は、「運転パトロール及び運転操作」によるもので、協力企業の外部被ばく最大線量は、「RHR(残留熱除去系) ポンプ本格点検」の作業によるもので計画通りの実績となっている。



※1 X:検出限界(0.1mSv)未満

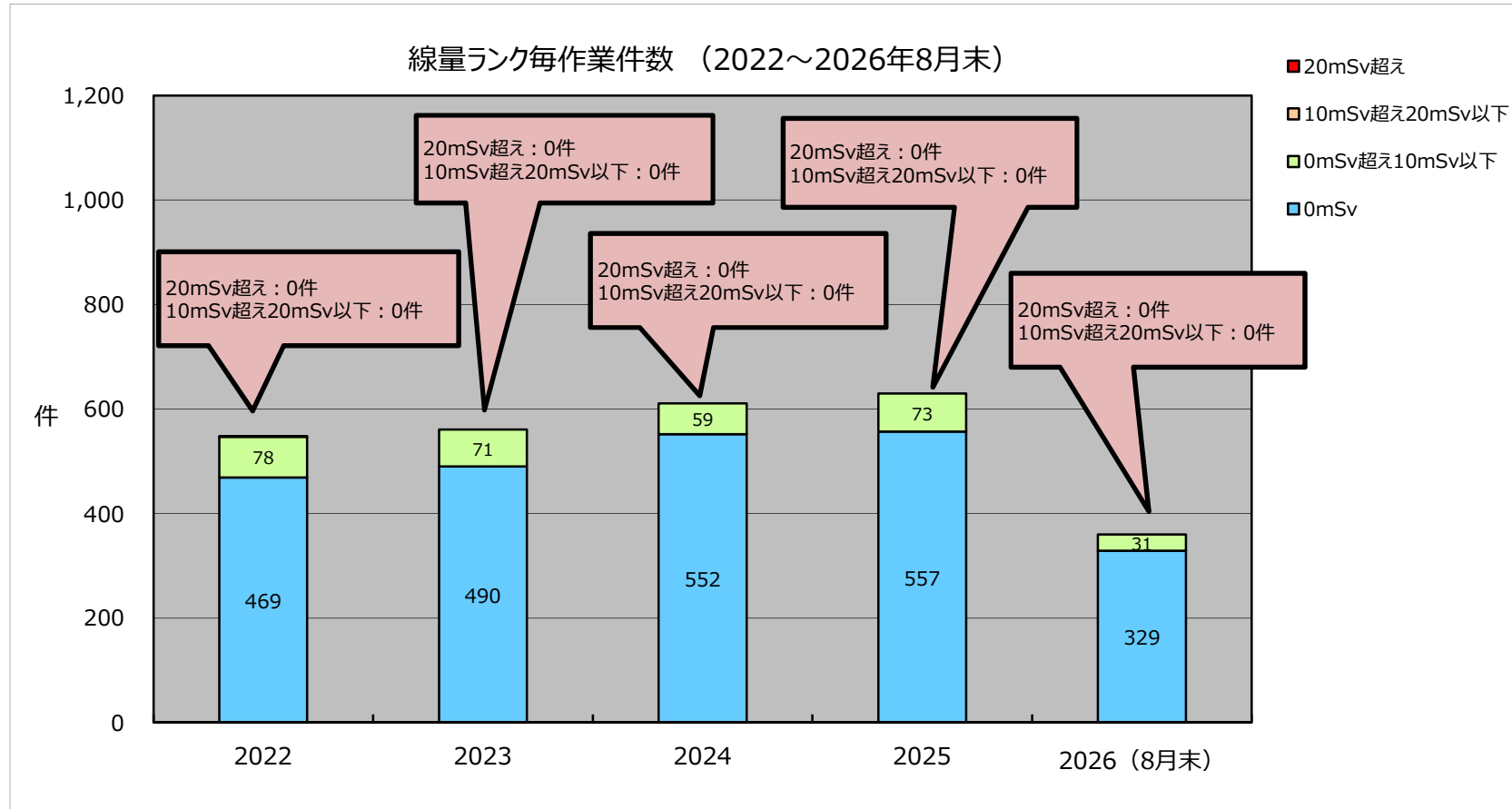
④年度別放射線業務従事者数

■ 前年度の同時期と比較して同程度である。



⑤年度別線量ランク毎作業件数

- 2022年度から2026年8月末において10mSvを超える作業は、0件となっている。



⑥ 2026年4月1日を始期とする5年間の実効線量

- 当該期間における実効線量は以下のとおりである。

2026.4月～2026.8月末の累積		
個人最大実効線量 (mSv)	東電社員	協力企業
	0.10	0.80

法令に基づく線量限度の5年間については、本年度より5年管理期間の切り替えに伴い、

累積実効線量は、新たな管理期間として評価しており、5年間100mSvを十分に下回っている。

2026年8月末における最大値は0.80 mSv(③年度別外部被ばく最大線量：暫定値)であり、年間の線量限度50mSvを十分に下回っており、適切に線量管理されているものと評価する。

また、2026年4月～2026年8月末までの累積線量は暫定値の為、受動形個人線量計による測定値の置き換えにより変動することがある。

⑦前年度との比較

- 外部被ばく総線量、平均線量とも昨年度の同時期と比較して同程度となっている。

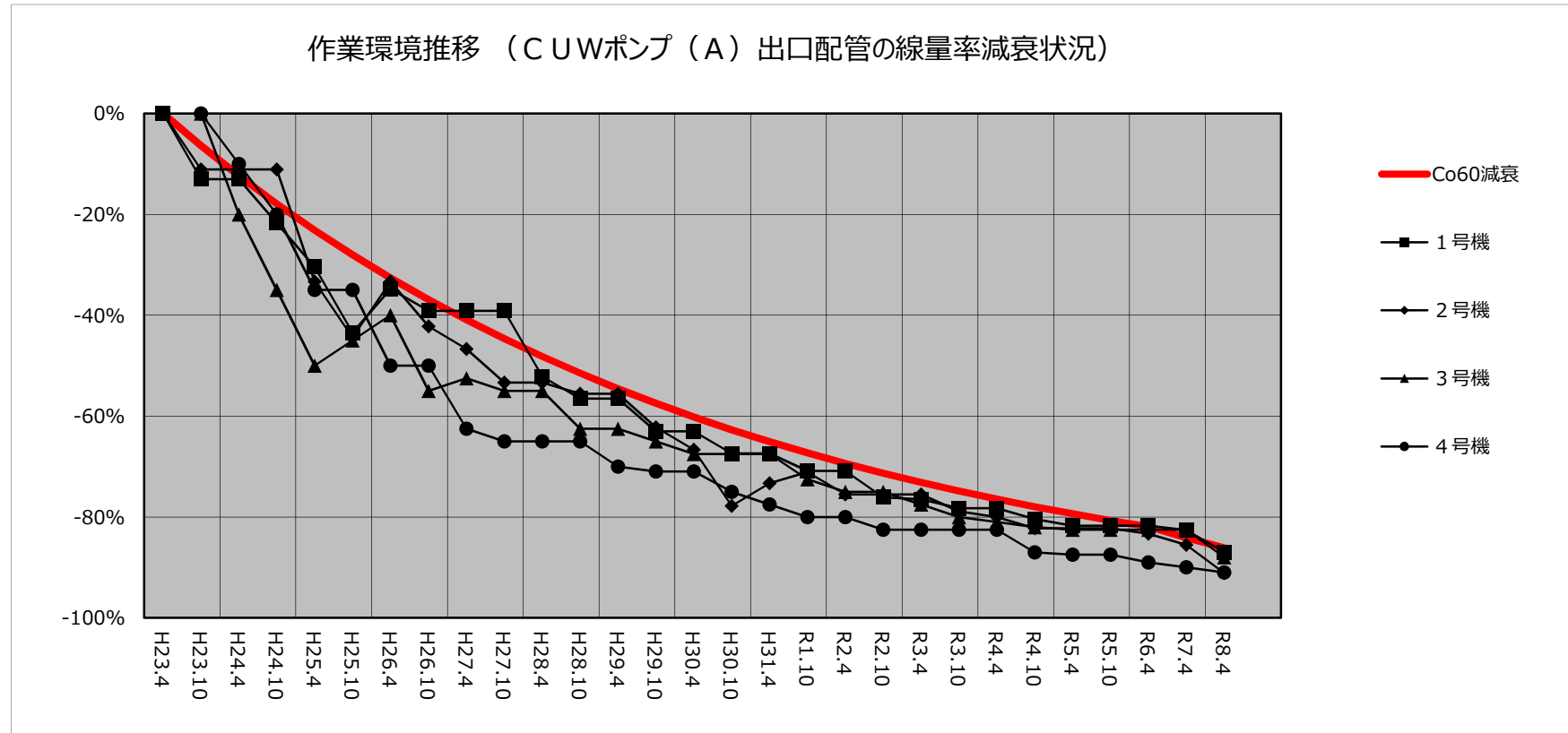
個人最大線量は、東電社員は「運転パトロール及び運転操作」によるもので
協力企業は「RHR(残留熱除去系) ポンプ本格点検」の作業によるもので計画通

比較項目		2025年8月末	2026年8月末	比較 (2026-2025)
作業件名数		376件	360件	▲ 16件
総線量		0.00人・Sv	0.01人・Sv ※2	0.01人・Sv
平均線量		0.00mSv	0.01mSv ※2	0.01mSv
最大線量	東電社員	XmSv	0.10mSv ※2	－ mSv ※1
	協力企業	0.3mSv	0.80mSv ※2	－ mSv ※1
放射線業務従事者数		1179人	1224人	45人
総線量が10人・mSvを超える作業件名数		0件	0件	0件

- ※1 2025年8月末は、受動形個人線量計による評価、2026年8月末は電子式個人線量計による評価(暫定値)の為比較は「－」とした。
- ※2 2026年8月末の総線量、平均線量ならびに最大線量は、暫定値の為、受動形個人線量計による測定値の置き換えにより変動することがある。

参考資料

CUW:原子炉冷却材浄化系



作業環境に与える指標として採取している代表的なデータを示したもの(D/Wを除く)